

# パレスチナに行って来ました。

ひっぴい (日比野 真)

## はじめに

今日は呼んでいただいてありがとうございます。楽しい時間にしましょう。

せっかくですので、言いたいことは何でも言って、聞きたいことは何でも聞いて帰りましょう。どんなお話でも大丈夫です。

### 1: それぞれで自己紹介をしましょう。

また、今日の集まりで何か特に希望があれば教えてください。

### 2: 今日この場所でのルールについての提案(性的な暴力について)

#### ひっぴい の自己紹介

##### 私とパレスチナとの出会い

2002年5月終わりにパレスチナに行き、国際連帯運動(ISM)の活動に参加しました。6月1日にバラタ難民キャンプでイスラエル防衛隊(軍)に身柄を拘束され、10日間拘束されました(その後保釈)。強制退去処分の取り消し請求裁判をエルサレム地裁に起こし、結局敗訴。7月に日本に帰りました。

##### 私の普段の活動

わたしは、ここ10年くらい、レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーなどの性的被抑圧者の権利のために闘うことを通して、「ホモフォビア(同性関係嫌悪)」「性別」「男女という制度」などについて考えてきました。最近はまだ「生と性はなんでもありよ!の会 プロジェクトP」というグループで企画も行っています。(案内をレジюмеに入れてあります)

「<http://barairo.net/>」で、私の書いた文章や、これまでの取り組みなどについて知ることができます。

##### 今年の抱負

戦争に反対する何万人ものデモがしたいなあ。それが性的問題をないがしろにしないものであるといいなあ。

## 国際連帯運動 ( the International Solidarity Movement / ISM )

( 別途添付した資料も参照してください )

私達 ( ISM ) について ( ホームページより抜粋 )

国際連帯運動は、パレスチナ人によって指導される運動で、パレスチナの自由のための闘いへの注目を喚起しイスラエルの占領を終わらせるために働いている、パレスチナ人と国際活動家の運動です。私達は、非暴力主義的な直接行動の抵抗の方法を、違法なイスラエルの占領の力と政策に向き合い挑戦するために用います。

国際法や国連決議の中にもうたわれているように、私達は、武装した闘いを通してイスラエルの暴力と占領に抵抗するパレスチナ人の権利を理解します。それでも、私達は、非暴力が闘いの圧迫の中での強力な武器でありえると信じます。そして、私達は非暴力主義的な抵抗の原則に身をゆだねています。

( [http://www.palsolidarity.org/about\\_us.htm](http://www.palsolidarity.org/about_us.htm) )

- ・運動方針が支持できた。  
( 上記参照。パレスチナ人の武装闘争の権利を明示的に支持している。 )
- ・パブリックな運動を作っている ( 釜ヶ崎の越冬闘争のよう )  
個人の参加を積極的に受け入れている。誰でも参加できる。( ファイサルの宿泊者も )  
全て公開、のやり方がよかった。( 電話番号とか )  
運動主体の集団性の形成を目的にしてしまわない。
- ・個人登録が衝撃的だった。政府や、大きな組織の力で何かをするのではなく、「個人が自分でできることを、自分の責任で、まずする」というのがよかった。「どんな人でも、力を持っている。世界を変えられる」とエンパワーされた。
- ・ホームページに「とにかく、あなたがここパレスチナにいることに意味がある」と書いてあった。何の技術もない自分が行って、足手まといではないのかという危惧もあったが、とりあえず「来い」と書いてあったので行くことにした。

## **私は素人。基礎知識編。**

私はパレスチナ問題について、実はど素人です。今年の5月に現地に行くことを決めるまで、パレスチナ系の集会にも顔を出しませんでした。何も知りませんでした。

ということで、ごく基本的な知識の話から、始めましょう。

パレスチナってどこのこと？

- ・私もよく分かっていなかったんですが、パレスチナってどこのことかご存じですか？

1947年以前にパレスチナに住んでいたユダヤ人の人口は全体の約1/3。そのユダヤ人たちが持っていた土地は全パレスチナの約6%。

国連分割決議（1947）ではイスラエルは52%を占める。

（決議は、全56加盟国のうち、賛成33反対13棄権10）

- ・イスラエル国家の正当性についてユダヤ人はどう考えているのか。
- ・イスラエルの侵略によって難民となった人たちがいる。  
その難民が住んでいる「バラタ難民キャンプ」に行ってみよう。

## **バラタ難民キャンプ**

占領の実態（写真を説明します）

今日の写真の一部は私のホームページ（<http://barairo.net/>）にも掲載されています。  
（子供の写真などがはずしてあります）

## **イスラエルでの体験**

写真を説明します

今日の写真の一部は私のホームページ（<http://barairo.net/>）にも掲載されています。

## **自爆攻撃**

エルサレム郊外の「ギロ」という入植地での自爆の現場写真。

## **オスロ合意**

パレスチナでは自治政府があり、オスロ合意によって自治が始まっている、と私は思っていました。

その自治の内実が分かる、いい地図をお見せします。

## テルアビブのセクシュアルマイノリティーのパレード

写真を説明します。

昨年は1万5千人が参加。カラフルなパレードをお楽しみ下さい。

ブラックランドリー（黒い洗濯物・黒い羊）

- ・15000人のうち250人がブラックランドリー。

昨年のパレードで旗揚げした。これまでに50回のデモをした（毎週！！）。

### 主張内容

- ・「No pride in the occupation」(昨年のスローガン)
- ・今年「全ての抑圧は関係している」がスローガン。
- ・占領とインティファダが続く今は、カラフルなマーチをするときではない（グレー・レインボウ・フラッグ）
- ・ブラックランドリーには「イスラエルのグループ」というアイデンティティーはない。
- ・「この人たちは私たちが嫌っている」と言いつつ、自分たちのチラシをコミュニティ内主流派の新聞に勝手に挟み込み。

もしあなたが、一つのマイノリティーへの抑圧が他の抑圧と繋がっているということに同意するのなら、

もしあなたが、ゲイプライドパレードの商業主義化と階級的抑圧が繋がっていることを理解するのなら、

レズビアンへの抑圧、資本主義、性の商業的搾取と繋がっていることや、

Mizrahimへの抑圧とアラブ人への抑圧と繋がっていること

新移民への抑圧と外国人労働者への抑圧が繋がっていること

トランスセクシュアルへの抑圧と女性への抑圧が繋がっていること

ゲイ男性への抑圧と軍事主義と繋がっていること

障害者への抑圧とビューティーコンテストと繋がっていること

家屋の破壊と入植地での家屋の建築と繋がっていること

失業と占領と繋がっていること

などに同意しまたは理解するのなら、

それなら、あなたに選択の余地はない。あなたもまた私たちと繋がっている。

テルアビブでのゲイプライドマーチで、私たちに参加しよう。

黒く着飾るか、全く着飾らないでマーチに参加し、そこで会おう。

「Kvisa Shohora(Black Laundry) 占領に反対し社会正義のための直接行動

お問い合わせ：(067) 767-651 もしくは [KvisaMail@yahoo.com](mailto:KvisaMail@yahoo.com)

## 行ってみて何を思ったか

### 1: イスラエルはマイノリティー運動だ

性に関連する差別を考えると、差別と闘う運動をするとき、「自分は被害者だ」ということばかりを考えて、自分のマジョリティーさや権力に気がつきにくい（又は分かっていても権力を手放す気がない）ということは、LGBTコミュニティでの経験でも（例：「レズビアン・ゲイ・パレード」）、特に大学生や院生などの一部のフェミニストの中にも、あまりにしばしばあることだった。また、「男だって差別されている」とだけ言って「男女という制度」の中で自身が得している部分は考えない人には、マイノリティーぶる事の弊害が典型的にでている。

世界史的に差別されてきたユダヤ人が「自分たちは被害者だ」と思いながら自己の生存権と「市民としての安全な生活」のためにパレスチナ人を差別している。こういった構図は、イスラエルだけの問題ではなく、日本でも同じ問題がずっと起きている。

ユダヤ人は歴史的に差別されてきたし、今も差別されている

（歴史）・ナチスドイツのホロコースト

- ・戦後欧米諸国はユダヤ人を受け入れたくなかった。  
戦後結ばれた難民条約は、ユダヤ人難民を主な対象としたものだった。
- ・ユダヤ人は、50年代まで、文献上、白人ではなかった。

（現在）・便所の落書き。

- ・「ホロコースト」否定論。欧州における極右の進出。
- ・写真展に来てくれたある欧米人。

「反ユダヤ主義」と「シャロンの強硬政策」とのマッチポンプ

ユダヤ人は今でも差別されている/差別されるおそれがある、という当事者にとってのリアリティ

*cf. (在日朝鮮人のコミュニティ)*

ユダヤ人にとってのユダヤ人コミュニティの必要性。

ひいては、ユダヤ人国家イスラエルの必要性の感覚

ユダヤ人による自身のコミュニティ批判、イスラエル批判の困難さ

ユダヤ人によるシャロンへの支持。ひどいと思っても批判しにくい。

*cf. (在日朝鮮人のコミュニティにおける北朝鮮批判の困難さ)*

非ユダヤ人にとっての、「イスラエルのシャロン」への批判、非難

< レジューメ-5 >

イスラエルやユダヤ人への嫌悪感

反ユダヤ感情の拡大。ユダヤ人差別。

(はじめに戻る)

ユダヤ人の国家の建設(シオニズム)という方針こそが誤り

「ユダヤ人の国家の建設(シオニズム運動)」という、マイノリティー運動の本質主義的な運動路線の弊害の典型例としてイスラエル国家を考えた。

(同質性による安心確保としての「ユダヤ人の国」「ゲイのパレード」)

**イスラエル批判は、社会運動内部での自己批判であるべきだ、と考えた。  
相手がマイノリティー運動だからといって、批判を躊躇してはならない。**

2: イスラエルは紛れもない侵略国家だが、  
イスラエルだけがことさら悪いわけではない

イスラエルには「暴力と報復の連鎖」があるのではない。存在するのは「イスラエルによる侵略とそれに対するパレスチナの抵抗」「軍事的に力が強い者(イスラエル)の開き直りの連鎖」だ。

しかし、イスラエルがやっていることは、世界規模での基本的な文化の反映だ。

米国全土、北海道、沖縄などで行われた、先住民への侵略や植民地化は、それが行われるときは被侵略側の武力を含む抵抗にあうが、抵抗を鎮圧してしまえば、数百年後には侵略と植民地化が既成事実となる。

イスラエルがやっていることは、以前に日本や米国がやってきたことと同じだ。日本や米国などが侵略と植民地化を行い、その責任をとらず、それを開き直ることができているからこそ、イスラエルは現在進行形で侵略を継続できる。もし米国がアメリカ先住民への損害賠償支払いで破産するようなことになれば、もし欧米諸国が過去の植民地支配に対する損害賠償で破産することがあれば、もし日本がアイヌ民族への侵略に対する損害賠償で破産するような事実を作り出せば、つまり、侵略や占領をしても数百年後には損害賠償をさせられて大損をするという世界をつくることができれば、イスラエルは侵略と占領をやめようと思うのではないのか。

イスラエルのレイシズムと日本のレイシズム

・「外国人」への扱い

(身分証明書の常時携帯義務・再入国許可証・社会保障からの排除・選挙権等の政治的権利の剥奪)

・強制退去を待つ「外国人」の扱い(別添え資料-西日本入管の現実・私が収容されてい

た拘置所との対比)

- ・「加害者」としての自己認識のなさ、「被害者」としての自己認識の強さ（別添え資料・北朝鮮への認識）
- ・アイヌ民族を先住民と認めない日本政府
- ・在日米軍基地の約75%が沖縄に集中。（沖縄の面積は日本全体の0.6%）

**日本政府の方針を変えることができていない自分を棚に上げて、イスラエル市民を一方向的に非難するのは間違い。そんな資格はない。イスラエル国家や市民を批判するだけで済むような問題ではない。**

3:「無実ではない私」は、では何もできないのか

- ・イスラエルはマイノリティー運動であり、少なくともイスラエル市民は「悪魔」「殲滅すべき敵」ではない。「奴は敵だ、敵は殺せ」という選択はできない。（前述1）
- ・イスラエル政府がひどいものと同じくらいには日本政府は悪い。わたしは、イスラエル市民がそうであるように、レイシズム国家日本の中に生き、レイシズム国家日本を支えている。（前述2）
- ・直接の被害者は、加害者に対する武装闘争の権利がある（例：ベトナム解放戦線、植民地の独立運動）。

無罪な者が有罪な者を裁くのではないような闘い方としての、非暴力直接行動

- ・「属性」「立場」を離れて個人でできることはたくさんある。
  - ・国際連帯運動には、米国籍のユダヤ人も多く参加していた。
  - ・ブラックランドリーは、自分の属するコミュニティに対する、内部からの異議申し立て。
  - ・軍事力や物理的な暴力によらなくても、ただ公然と意見を言うだけで大きな力になる。
  - ・ただしそれは、自身の属するコミュニティから排除・非難される危険性を持っている。
- ・例えば、米を送るのではなく、自分で北朝鮮に行って炊き出しを行う。

見て見ぬ振りはしない、セカンドレイプはしない（「目撃者」になろう！）

例えば性的な暴力のことを考えたとき、被害者が声を挙げても周りがそれを聞き流したり無視したりする現実があり、そんなセカンドレイプこそがとても状況を悪くしている。また例えば誰かが自分のセクシュアリティをカムアウトしたときも、周りに応援してくれる人が1人でもいたら、どれだけ状況がよくなるだろう。

それと同じで、パレスチナの人たちはずっと声を挙げ続けている。それが世界に無視されたら、それは本当に悲しいことだ。

それは、自分自身がされてきたことでもあった（日本の社会運動の文脈でのジェンダ

<レジュメ7>

ーやセクシュアリティの課題のことさらな低い優先順位、など)

せめて私は、見て見ぬ振りはしない、何かできることをしたい、そんな思いがあった。

「目撃者」になること自体も、大変なこと。

- ・ 所詮、帰ってくる。見捨ててくる。逃げてくる。忘れることができる。
- ・ 日本に帰ったときの落差。
- ・ 「目撃者にならないこと」「共犯者として見殺しにする側に回ること」への誘惑。
- ・ **性的な暴力との対比**

#### 4: 国際連帯運動は、戦争に対する新しいアプローチ

「戦争だからやむを得ない」とは考えない。戦争の「やったもんが勝ち」「やりたい放題」を変える世界史的動きの中の一つ。戦場におけるISMのいけしゃあしゃあとした直接行動は、戦場で、そこがまるで戦場ではなく京都やロンドンであるかのように振る舞い、市民の権利を主張し個人の権利を主張することで、戦争ができない状況を作ること。戦場だからといって性暴力は容認されない。戦場だからといって民間人への暴力は認められない、と主張する。

#### 5: とにかく、行ってみると、いろんなことを考えることができる。

### パレスチナ問題についてのよくある誤解

#### 1: イスラエルとパレスチナとの闘いはユダヤ教とイスラム教との争い、宗教の問題

ではない。シオニズムに基いたイスラエルの軍事侵略と占領、それに対するパレスチナ人の闘い、侵略者に対する先住民の闘いがあるのであって、宗教戦争ではない。

もともと様々な宗教の人が住んでいた「パレスチナ」の土地に、「ユダヤ教徒(だけ)の国をつくる」という考え方(シオニズム)でイスラエルを建国した事自体が間違い。「イスラエルはユダヤ人の国」というシオニズムの考え方こそが、パレスチナの地(現在イスラエル領)におけるパレスチナ人への弾圧のもとになっているし、イスラエルに住むパレスチナ人への差別の源泉。その一方で、パレスチナ人には、イスラム教徒の他に、キリスト教徒も、ユダヤ教徒もいる。

例えばPLOは、シオニズム以前に住んでいたユダヤ教徒をパレスチナ人として認めている。

#### 2: 「テロと報復の連鎖」が問題

ではない。存在するのは、「イスラエルによる侵略や占領と、それに対するパレスチナの抵抗闘争」であり、イスラエルの軍事侵略と占領こそが問題だ。



## パレスチナ問題を考えるときの盲点（他の先住民）

### サマリア人(Samaritan)

世界で最も人数の少ない少数民族で、たったの584人のサマリア人は、パレスチナ人でありイスラエル人である、両方であると主張している。サマリア人はアラビア語を話し、しかし古代ヘブライ語でお祈りをする。（中略）

長年に渡り、サマリア人たちは地域の政治的な動きに大きく影響を受けてきた。力強い共同体だったかつての時代から、まず始めにビサンチン帝国とアラブによって征服され、改宗を強いられることによって、サマリア人の数は減っていった。英国の委任統治時代には、その時には150人を下回っていたサマリア人の共同体は、ナブルスからホロン（今ではテルアビブ郊外になっている）に、だいたい半分ずつに分離移住させられた。1948年以降は共同体はイスラエルとヨルダンとに分割され、6日間戦争におけるユダヤ人の勝利によって再度結びついた。こういった成り行きによって結果的に、最近では、ナブルスに住むサマリア人はパレスチナ人として認識され、その一方、ホロンのサマリア人たちはイスラエル人とみなされる。この二つの共同体の関係には、困難さが伴っている。

（lonly planet社「Israel & the Palestinian Territories」）

「パレスチナ/イスラエルと現在呼ばれている地域で何が起きているのか」  
「イスラエルによる、パレスチナの占領だ」

このような、物事を単純化した認識が広がることは、パレスチナの地における多数派の利害（マイノリティー内の多数派の利害）を、パレスチナにおける少数派の利害（マイノリティー内の少数派の利害）よりも優先させることなのではないか。つまりそれは、「数が多かったり、力や権力を持っている者の都合が、それらを持っていない者の都合よりも優先されると構造の再生産なのではないか。つまりそれは、イスラエルがパレスチナに対してしていることと変わらないのではないか。

「私」「私たち」が知っているか/理解しているかどうか、物事の重要性のバロメーターになってはいけない。この地域で起きていることを「イスラエルによるパレスチナの占領」とわかりやすく表象することは、おそらく過ちを犯していることである、という自己認識が必要なのではないか。

## パレスチナ問題でなにができるか

現地派遣ツアーを組織しよう。

### いま個人として何ができるのか

- ・パレスチナだけが特別な場所ではありません。(イラク、アフガニスタン、ビルマ、ルワンダ、ボリビア、ジンバブエ、ソマリア、沖縄、北海道、在日朝鮮人コミュニティー、日本国内の難民、その他様々な諸課題)それぞれの課題にはそれぞれの重要性がある。できる範囲で取り組みを広げるしかない。
- ・「パレスチナ/イスラエル」で起きている問題をちゃんと教訓にしよう。正確に言うなら、「パレスチナ/イスラエル」で起きている問題、取り組み、闘いをネタにして徹底的に搾取し、自身の生活と自身が作る社会運動をよりましにしていくために「ちゃんと利用しよう」。
- ・死刑の廃止、性的指向の権利など、自国から先に変えることで影響を与えうる。(私の裁判も特権だった)
- ・自身の組織するまたは参加する社会運動が、「イスラエル」のようなマイノリティー運動にならないように。
- ・更なるマイノリティー、ダブルマイノリティーなどの課題を後景化させてはならない。
- ・政治的に正しい課題と主張を掲げているからといって、その運動の持つ問題点に目をつぶらない。
- ・これは、既存の社会運動・労働運動の文脈でジェンダーやセクシュアリティの課題が不当にもないがしろにされているのはおかしい、と言う時の論点でもある。そして同時に、ゲイコミュニティーの中のバイセクシュアル男性、ゲイリブの中のトランスジェンダーの位置づけ、ゲイコミュニティーの中の身体障害者の位置、ゲイコミュニティーの中の外国人の権利、などといった話でもある。
- ・「私たち」は一体何を「価値」「希望」として社会に対して提示・提案するのか。「自身が損しているから、ひどい」ではなく、自身を含む人の生き方を問い直すことを目指そう。

### 各種ホームページ

- ・ ISM <http://www.palsolidarity.org/>
- ・ 日比野 <http://barairo.net/>
- ・ 日比野の各種活動の案内情報  
[barairo510-subscribe@egroups.co.jp](mailto:barairo510-subscribe@egroups.co.jp) に空のメールを送るとメールグループに登録できる